

- ①文章をよく読む必要が例年以上にあるため、「時間がなかった」という受験生もいたのではないかと
- ②完答式がついに社会科並みに増えた。
- ③典型問題が多いため、人によっては「即答」した問題もあるのではないかと。

→個人的にこのような分析になるので平均点の予測は難しいです。「間違えちゃうんじゃないのか？」と思える問題で11題。そうすると「56点」になりますが、「52点」～「58点」と予想します。例年、バシッと当てているのですが、今年は難しい。

1 小問集合

すべて典型問題

- 問1 肝臓と腎臓のはたらきの違いを覚えていたかどうか。
- 問2 振動数と振幅の問題
- 問3 初期微動継続時間で解く方法やP波とS波の秒速から解くのか。解き方によって解答時間に違いが出た問題。
- 問4 イオンの移動は定期試験でも出題多数。
- 問5 他の道府県の問題でも人気の形式。親の遺伝子の組み合わせを問う問題だが、今回に関しては、即答できなくても4つの選択肢を試すという粘り作戦が可能なので正解率は高いはず
- 問6 「力のつりあい」と「作用・反作用」は似ているが実は大きく考え方が異なる。この問題自体は定期試験で人気の問題。ひもを天井に固定し、そのひもに物体を吊り下げている問題の方が難しく、本問は机と物体だったため、教科書にもよくのっているのをチェックしている人は即答できたはず。

2 レポート問題

出来る子ほどレポートを読まずに解答する傾向があるのでレポート3が心配。杞憂に終わればいいのだが。

- 問1 典型問題
- 問2 目盛りを読み間違えなければ
- 問3 「水に沈んでいる」 + 「 $65 \div 55 = 1.18 \dots$ より密度が小さい」を読みとけたか。計算が得意な子はいったい「 $65 \div 55 = 1.18 \dots$ 」の部分のみをやってしまう。そんな受験生がいないことを祈る問題
- 問4 典型問題。

3 地学分野

全体として典型問題のオンパレード。

文章量が多く、しっかり読まないと解けないので時間ももっていかれたはず。

- 問1 水蒸気量の大小関係、もしくは湿度の大小関係は他の道府県でも頻出の問題。
ただ、こういう問題では肝心のデータが与えられず計算で押し切るのは不可能な場合が多い。
今回は気温と飽和水蒸気量の関係を連想できたかが勝負。都立は「肝心の図がない」という傾向があるが、本問はまさにこれ。気温と飽和水蒸気量のグラフや「気温が高い＝飽和水蒸気量も大きい」という連想ができたか。基礎ができている・できていないで正答率が大きく変わるであろう良問。
- 問2 完答式だが、風向きの勘違いがなければ楽勝
- 問3 寒冷前線と高気圧（低気圧）のお決まりの問題。完答式でも正解できたはず。
- 問4 天気図は「夏」「冬」「梅雨」は鉄板で暗記していないとダメ。消去法で「春」もしくは「秋」になる。「春」と「秋」が両方出てきたときは難問になるが今回は1つだったので多くの人が消去法で解いたはず。

4 生物分野

そもそも生物分野は正解率をもっとも高い。ただ、近年は最後の問題が完答式でしかも正解率も低いため、やっかいだと思っていたのだが今年は受験生にとっては良かったのではないか。

- 問1 典型問題
- 問2 典型問題
- 問3 実験の意図をしっかりと把握できていたか。

5 化学分野

都立ではなく、少し難しめの道府県の過去問を解いていた子からすると物足りない問題。都立型の問題ばかりをやっている計算練習を積んでいない生徒は問3、問4で苦戦したはず。

- 問1 ①の実験の手順の理由は定期試験では多く聞かれるが、「気圧」が上がった、下がったは私の経験上、結構な人が苦手になっている。②は典型問題だが、正解率は案外かも。。
- 問2 「熱分解」で選べたかどうか。「二酸化炭素発生」で考えちゃった子は困ったかも。。
- 問3 「反応前」「反応後」の2つが入っているが、肝心の本当の実験前の質量、つまりビーカーと炭酸水素ナトリウムの和がのっていない。自分で作らないといけない問題。
その値から反応後を引き算すると二酸化炭素の量がわかる。他の道府県同様なレベルの問題が出され、都立入試も変わったなど実感。
- 問4 普通に計算問題。ただ、都立では100点取らないと合格しない、という高校は無いので落としていてもへこまなくて大丈夫。解き方は色々あるが、炭酸水素ナトリウム1gで気体が0.52g発生したというところから比で解くのが一般的か。

6 物理分野

電気分野が苦手な生徒はそもそも何を出しても難しく感じるのだが今回は得意な子でも時間をかけたのではな
いか。

- 問1 方位磁針が2個上下にある問題は珍しいが、右ネジの法則を考えれば正解にたどり着く。
ただ、思考問題になるので正解率は低いと思われる。
- 問2 理由問題としてはお粗末。過去の傾向としては2ポイント制（前半書けて2点。後半書けて2点）
だったが今回は磁界の変化に言及すれば○。
せっかくの理由を聞く問題なので他の単元で使えば良かったのに、というのが正直な感想
- 問3 直列と並列での電流や豆電球の明るさ、本問のように回転数の違いなどの出題は多くの人が
苦しむ問題。本当にわかっていないときつい理系好みの良問。上位校狙いの生徒は合否を
分けるので解けてほしい。
- 問4 大問4で使われていた形式が大問6に移動。ここも上位校狙いの人は解けてほしい。